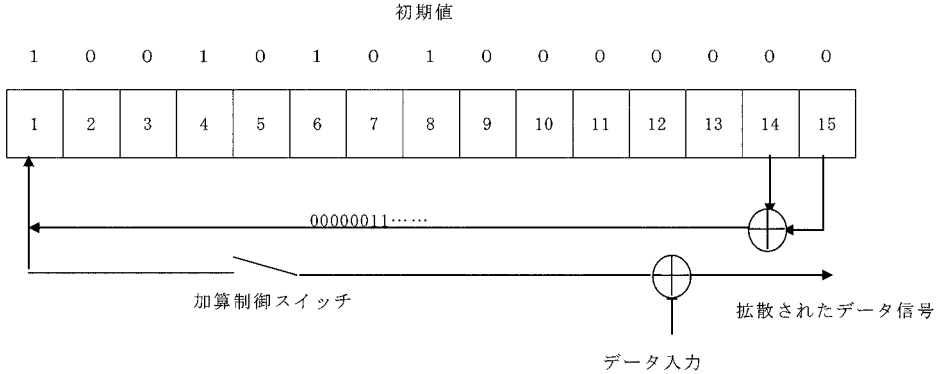
別記１　電力拡散信号

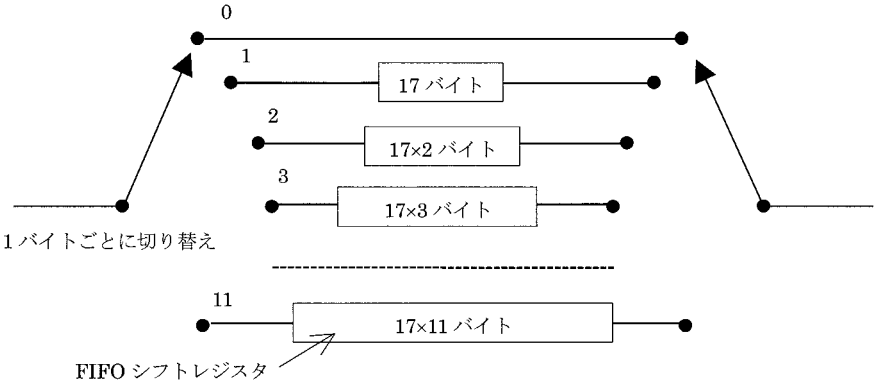
１多重フレームを周期とし、各多重フレームの先頭の１バイトの次のバイトから$X^{15}+X^{14}+1$（15次M系列）により発生する擬似乱数符号系列を加算する。ただし、この間、周期内のＴＳパケットの同期バイトには加算は行わないが、擬似乱数符号系列の発生は継続するものとする。



⊕：排他的論理和の演算素子

別記２　バイトインターリーブ

１　バイトインターリーブは、204バイトのＴＳパケットに対して、畳込みインターリーブを行うものとする。また、インターリーブの深さは12バイトとする。ただし、同期バイトの次のバイトは遅延なしのパス０を通過するものとし、入力と出力は１バイトごとに、パス０、パス１、パス２、…パス11、パス０、パス１、パス２…と順次巡回的に切替えることとする。



２　バイトインターリーブの前に、以下の遅延補正を設けることとする。
ただし、Ｎはその階層が使用するセグメント数を表す。

キャリア変調マッピング	畳込み符号	遅延補正量（ＴＳパケット数）		
		モード１	モード２	モード３
４分のπシフト差動４相位相変調 ４相位相変調	１／２	12×Ｎ－11	24×Ｎ－11	48×Ｎ－11
	２／３	16×Ｎ－11	32×Ｎ－11	64×Ｎ－11
	３／４	18×Ｎ－11	36×Ｎ－11	72×Ｎ－11
	５／６	20×Ｎ－11	40×Ｎ－11	80×Ｎ－11
	７／８	21×Ｎ－11	42×Ｎ－11	84×Ｎ－11
16値直交振幅変調	１／２	24×Ｎ－11	48×Ｎ－11	96×Ｎ－11
	２／３	32×Ｎ－11	64×Ｎ－11	128×Ｎ－11
	３／４	36×Ｎ－11	72×Ｎ－11	144×Ｎ－11
	５／６	40×Ｎ－11	80×Ｎ－11	160×Ｎ－11
	７／８	42×Ｎ－11	84×Ｎ－11	168×Ｎ－11
64値直交振幅変調	１／２	36×Ｎ－11	72×Ｎ－11	144×Ｎ－11
	２／３	48×Ｎ－11	96×Ｎ－11	192×Ｎ－11
	３／４	54×Ｎ－11	108×Ｎ－11	216×Ｎ－11
	５／６	60×Ｎ－11	120×Ｎ－11	240×Ｎ－11
	７／８	63×Ｎ－11	126×Ｎ－11	252×Ｎ－11

別表第十六号　搬送波を変調する信号を求める方程式（第20条第１項関係）

$$s(t)=\mathrm{Re}\left\{e^{j\cdot 2\pi\cdot f_c\cdot t}\sum_{n=0}^{\infty}\sum_{k=0}^{K-1}c(n,k)\cdot\Psi(n,k,t)\right\}$$

ここで

$$\Psi(n,k,t)=\begin{cases}e^{j\cdot 2\pi\cdot\frac{k-K_c}{T_u}\cdot(t-T_g-n\cdot T_s)} & n\cdot T_s\leqq t<(n+1)\cdot T_s \\ 0 & \text{その他の}t\end{cases}$$

$s(t)$　：ＲＦ信号

f_c　：ＲＦ信号の中心周波数

n　：シンボル番号

k　：セグメント11番のキャリア０番を０とする全帯域連続なキャリア番号

K　：キャリア総数（モード１：1405、モード２：2809、モード３：5617）

K_c　：ＲＦ信号の中心周波数に対応するキャリア番号（モード１:702、モード２：1404、モード３：2808）

$c(n,k)$：シンボル信号ｎ、キャリア番号ｋに対応する複素信号点ベクトル

T_g　：ガードインターバル期間長

T_s　：シンボル期間長（$T_s=T_u+T_g$）

T_u　：有効シンボル期間長（$T_u=7(K-1)/39\times10-6$、キャリア間隔：$1/T_u$）

別表第十七号　ＯＦＤＭフレームの変調波スペクトルの配置（第20条第２項関係）

部分受信部を挿入する場合には、セグメント番号０に挿入し、順次セグメント番号に従って、差動変調部、同期変調部と配置する。なお、帯域の右端には、ＣＰシンボルに対応するキャリアを配置する。

セグメントNo.11	セグメントNo.9	セグメントNo.7	セグメントNo.5	セグメントNo.3	セグメントNo.1	セグメントNo.0	セグメントNo.2	セグメントNo.4	セグメントNo.6	セグメントNo.8	セグメントNo.10	セグメントNo.12